



卒業式を挙行了しました

3月1日に第41回卒業式を挙行了しました。269名が高校生活3年間の思い出を胸に、それぞれの目標に向かって立っていきました。卒業おめでとう。



卒業生答辞

齋藤 律希 (三年・逢隈中出身)

暖かい陽の光が降り注ぎ、寒さの中にも春の息吹が感じられるようになりました。先生方並びにご来賓の皆様のご臨席を賜り、心温まる卒業式を挙行していただき、私たち卒業生一同感謝の念でいっぱいです。

新生活への期待と不安を抱き、校舎へと足を踏み入れたあの日のことを、今でも昨日のことのように思い出します。これまでとは違った環境に戸惑いながらも先生方や先輩方から優しく手を差し伸べていただけたおかげで、充実した三年間を過ごすことができました。一年生の頃には、部活動や体育祭、文化祭などすべての学校行事が活動的に行われ、「次は、来年には」ともっと楽しく、もっとみんなと一緒に翌年への期待が大きくなるほどの時間を過ごすことができていました。

しかし、二年生に進級すると、新型コロナウイルスの感染が拡大し、すべての活動が今まで通りとはいかなくなり、会えることが当たり前だった友人とも会えることが当然ではなくなりました。戸惑い、部活動も制限され、高校生活の大きなイベントであった修学旅行も中止となってしまいました。授業の受け方、楽しいはずの昼食時間の過ごし方など、すべてが様変わりしました。今までの経験、知識が通用しない場面も多々ありました。

しかしそれでも、私たちは学び続けました。先生方の創意工夫、関係者の皆様の助力のもと、感染対策を徹底し、慣れないなりに手探りで学び続けてきました。そしてその学びの中にはコロナ禍だからこその得られたものがありました。これからの経験は一見不自由なだけの陽にも思えましたが、実際にはこれから直面する様々な課題を解決していくための糧になると思っています。

そして、新型コロナウイルスによって、学校生活が大きな影響を受けてしまったなかでも、私たちは思い出の多い充実した学校生活を送ることができました。このように卒業することができたのは、先生方、先輩、後輩、地域の皆様の支えがあったからです。卒業生を代表して御礼を申し上げます。

在校生の皆様、先ほどは心のこもった送辞をありがとうございます。これからは、名取北高校の伝統を引き継ぎ、悔いのない学校生活をみんなで助け合い成長しながら過ごしていただくと思います。

保護者の皆様方。私たちはこれから、それぞれの道を進みます。ここまで私たちが成長できたのは、家族の応援があつてこそです。本当にありがとうございます。まだまだ未熟なところがあると思いますが、これからもよろしくお祈りいたします。

名取北高校で過ごした三年間は、私たちにとって一生の思い出に残る大切な財産です。苦楽をともに過ごしてきた友人、学ぶこと、チャレンジすることの意義を教えてください。先生や職員の方々、皆様方のおかげで今の私たちがあります。四月からは私たちは成人として社会の一員となり責任も大きくなります。そうした中でも高校生活で得たものを支えとし、より一層自分を成長させていきたいと思えます。最後にになりましたが、名取北高校の益々のご発展と、今まで私たちを支えてくださったすべての皆様のご健勝とご多幸を祈念して、卒業生代表の答辞とします。

在校生送辞

大沼 波央 (二年・久喜市鷲宮中出身)

草木もようやくややく長い冬の眠りから覚め、生命の息吹が感じられる季節となりました。このようなよき日に、皆様のご卒業を迎えられました。今、皆様は三年間の高校生活をどのように振り返っていらっしゃるのでしょうか。月日が経つのはあっという間なもので、皆様がこの名取北高校の門を初めてくぐられた日から三年になるうとしていきます。皆様は三年間という高校生活の中で一人ひとりが貴重な経験をし、大切な仲間と助け合い、一生の思い出を作り上げていたことと思います。大切な活動、学校行事、委員会と何事にも熱心に取り組む先輩方の姿は、私たち後輩の誇りです。

昨年は一昨年に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、様々な学校行事が短縮や中止になる場面が多かったかと思えます。そのような中、先輩方は、できることを探し、それを体現されてきました。そのような姿は私たちの目標であり、憧れです。そんな先輩方のたくましい背中を手本とし、この名取北高校の古き良き伝統を守り、継承しながら、発展させていくことを約束します。

これから新たな世界に歩みを進める皆様は、この先幾度となく大きな期待と不安を胸に抱えることでしょう。そのような時こそ、この名取北高校で培った沢山の大切な思い出や数多くの経験をもとに立ち向かってください。それらが必ず乗り越える力となります。新たな時代の先頭に立ち、信念を持ちながらこの名取北高校の卒業生という自覚と誇りを持って未来を切り開いていってください。またいつでもこの名取北高校にいらしてください。卒業後の活躍されている皆様にご会える日を楽しみにしています。

最後に卒業生の皆様のご健康とさらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。在校生代表の送辞といたします。



校長式辞要旨

高校卒業に当たり校長として卒業生諸君に対し三つの願いをお伝えしたいと思います。

一つ目は、「今まで受けた愛情を社会に還元すること」です。二つ目は、「既に与えられている自分の使命を自覚すること」です。

そして三つ目は、「生きて今あることに謙虚に感謝すること」です。

「今まで受けた愛情を社会に還元すること」

「人」は、産声を上げてこの世に誕生してから、父母はもちろんのこと、多くの人々の支えの中で成長していきます。家庭や学校ばかりではなく地域の方々からも、どれ程たくさん励ましと愛情を注がれて育ってきたことでしょう。それを思い起こしてほしいのです。そして今度は、愛情を受けた人に直接お返しするのではなく、これから出会う多くの人たち、未知の人たちにお返しをする。「社会に還元する」とは、そういうことです。

二つ目は、「既に与えられている使命を自覚すること」です。人はこの世に生まれたその時に、果たすべき使命が既に与えられていると言われています。「使命」は創り出すものではなく、気づきの中から自覚されるものです。人生の節目節目に耳をそばだてて、自分が果たすべき使命を聴き取りいち早くそれに気づいてください。

そして三つ目は、「今生きてあることに謙虚に感謝すること」です。東日本大震災から十一年、生き得なかつた多くの人々の思いに耳を傾け、その人たちの分まで生きぬいていかなければなりません。寿命がいつ果てるのかを知ることはいきません。それだけにいまここにこうして生きていることはやはり「尊い」。謙虚に感謝することを忘れてはなりません。

卒業生諸君。新型コロナウイルスの中で開催された北京オリンピックでは、日本人の目覚ましい活躍が見られました。フィギュアスケートの羽生弦結選手は、歴史に残る四回転半のジャンプに果敢に挑戦しました。転んでも転んでもしつかりと立ち上がり最後まで演技し終えた彼の姿に感動しました。君たちの行く手には多くの困難が待ち受けていることでしょう。しかし挫折することなく精一杯励んでください。

それが父母を初め、今までお世話になった多くの人たちの「愛情」に応えることなのです。

新型コロナウイルス感染症の一刻も早い終息を祈りつつ、諸君たちの前途に幸あれと祈りながら式辞といたします。



エイサー発表会を行いました

エイサーとは沖縄の盆踊りにあたる伝統芸能のひとつで、旧盆の夜に地域内を踊りながら練り歩くものです。本校では9年前から体育の授業(1年女子ダンス)に取り入れています。各クラス工夫を凝らした隊形で精一杯発表してくれました。



剣道大会を行いました

1年生男子は体育の授業で剣道を行っています。クラス対抗で剣道大会を行いました。一年間の授業の成果を発揮し、5名のクラス代表による熱戦が繰り広げられました。

